



昭和63年 9 月 **祝 500号**

阿久根市の歴史と

発展をしるす“広報あくね”



ただいま 500号

親しみ愛される「広報あくね」に

本紙「広報あくね」が記念すべき五百号を迎えました。

広報あくねの第一号は、阿久根市制施行の昭和二十七年四月に発行し、その当時はほとんどが手書きにより印刷されたもので新聞形式の二ページもの、写真は一枚も使用されていませんでした。

写真が使用されたのは第十八号からで当時の松田進市長や牧内基吉市議会議長の顔写真が掲載されています。

第一号の大見出しは「市制の喜びに明けた阿久根」小見出しとして「決意を新たに発展に邁進」と書かれており、当時の市制施行を喜ぶ記事が書かれています。

また、昭和三十年四月発行の第六十六号には、「三笠町との合併」三十四年十月発行の第百五十二号では「国民年金制度いよいよ実施」四十九年五月発行の第三百二十八号は「黒之瀬戸大橋が開通」五十七年六月発行の第四百二十五号では「市制施行三十周年、将来への発展、誓い新たに」などが掲載されています。

このように阿久根市の歴史と発展を証明するものとして歩み続けてきている「広報あくね」ですが、これからも市民の皆さんのご協力とご指導をいただきながら、親しみ、愛される「広報あくね」づくりをめざさなければいけないと思っています。



昭和27年4月に発行された 広報紙第1号

「広報あくね」

でみる

阿久根の動き

(一) は発行年月

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|----------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------|------------------------------|--------------------------------|------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------|--------------------------------|------------------------------|---------------------------------|--------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------|---------------------------|---------------------------|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|----------------------|--------------------------------|--------------------------|----------------------------|--------------------------------|---------|
| 266号 (44年4月)
高松川防災ダム完成 | 295号 (46年8月)
集中豪雨阿久根を痛撃 | 301号 (47年2月)
市の木に「ボンタン」決まる | 308号 (47年9月)
総合グラウンド開き、「完成祝 | 328号 (49年5月)
い市民体育大会」 | 329号 (49年6月)
黒之瀬戸大橋開通(4月) | 346号 (50年11月)
「国民宿舎あくね」オープン | 370号 (52年11月)
秋晴れに初の市民運動会 | 371号 (52年12月)
つち音高く市庁舎建設始まる | 377号 (53年6月)
「自衛隊誘致」善戦すれど及ば | 377号 (53年6月)
「近代都市(第一歩)鶴見地区 | 380号 (53年9月)
新しい市庁舎できる | 384号 (54年1月)
勤労者体育センターと老人福祉 | 409号 (56年2月)
上野都市下水路事業始まる | 414号 (56年7月)
「保健センター・働く婦人の家」 | 415号 (56年8月)
近日に着工(一) | 422号 (57年3月)
本市に海洋センター建設決まる | 425号 (57年6月)
「ジャパン物産・丸信シャツ」 | 448号 (59年5月)
本市に進出 | 467号 (60年12月)
「青年の家」完成 | 468号 (61年1月)
郷土資料館オープン | 477号 (61年10月)
総合運動公園整備始まる | 480号 (62年1月)
いよいよ上野崎町との交流始 | 481号 (62年2月)
川畑氏が市制施行初めての無 | 481号 (62年2月)
投票当選 | 481号 (62年2月)
「全国に届け阿久根のイワシ」 | 490号 (62年11月)
宅配便が大好評 | 492号 (63年1月)
臨本バイパス全線開通 | 492号 (63年1月)
千九百人が力走「ボンタンロー | ドレiss大会 |
|---------------------------|----------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------|------------------------------|--------------------------------|------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------|--------------------------------|------------------------------|---------------------------------|--------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------|---------------------------|---------------------------|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|----------------------|--------------------------------|--------------------------|----------------------------|--------------------------------|---------|

百号発行

昨日の如し



訓 衛
(現収入役)

「山高きを以て貴しとせずと云うが、市報も号多きを以ては貴しとはしないだろう。内容の充実、市民と市政の架橋の役を果たしてこそ貴しとするものだ。九月十五日は敬老の日、人間百

元広報担当者から一言

人生の中での

貴重な経験



富 浜 哲 美
(現水産課水産係長)

昭和五十五年五月から六十六年四月までの六年間、広報を担当しましたが、嬉しかったこと、楽しかったことがいろいろあると思ひ出されます。

歳ともなれば世は華けて祝ってくれるだろうが、市報百号ではまだまだ鼻垂れ小僧というところか……」

と私は市報百号の編集後記にこう書いています。昭和三十一年九月二十日発行のタブロイド版二頁のささやかな広報紙「市報あくね」思えば満々三十二年の歳月が流れて、当時の鼻垂れ小僧も今では、見事に成長して今月号で五百号となりました。しかし私には、あの時のことがつい昨日のことのように思えてなりません。

ができる、その時の喜びは言葉で言い表わしようがなく、今でも忘れることができません。

今は亡き川畑市長から焼酎を飲みながら、いろいろアドバイスをいただいたこともなつかしく思ひ出されます。

「これでまちがいない」と、自信をもって配布しても、ミスがあり相手に心からお詫びを申しあげたことも幾度となくありました。

広報担当、私にとっては人生の中での貴重な経験であったように思えます。

老人ホーム「ボランティア体験学習」

阿久根農業高校・阿久根高校女子生徒

市社会福祉協議会（斉藤洋三会長）主催による高校生のボランティア体験学習が老人ホームで実施されました。

老人とのふれあいの中で目の見えない、体の不自由な老人の心を若者が理解し、また老人が若者を通して生きがいを見つけ



「肩もんでもらうの何年ぶりかねー。よか気持ちじゃ」（聖園）

だすために行われたもので、八月三日、四日は阿久根農業高校の女子生徒十三人が盲養護老人ホーム「蓮の実園」に、八月十八日、十九日は阿久根高校の女子生徒十一人が聖園老人ホームを訪れました。

汗ビツショリになりながら園内の掃除や洗濯などをすませたあとは入居者との交流を図る居室訪問。おじいちゃん、おばあちゃんが若い頃の思い出話を、冗談もまじえながら語ってくれ

ると大きな笑い声をあげて聞く生徒たち。最初は、おじいちゃん、おばあちゃんたちの足手まといになるのではないかと心配していた生徒たちもしだいになれはじめ「じいちゃん」「ばあちゃん」と、明るい元気な声がホーム内をこだまするようになりました。食事や入浴のお手伝いも、おじいちゃんやおばあちゃんが何をしてもらいたいかを考えながら一生懸命がんばりました。

二日目の最後のお別れ交歓会では、生徒が一人ずつ感想を発表。「私は将来、福祉関係の仕事につきたいと思っています。今回の体験がきっと役にたつことと信じており、また必ず、おじいちゃんやおばあちゃんに会いにきますので元気でいてください」「私は看護婦になりたいと思っています。やさしいおじいちゃんやおばあちゃんの顔は忘れません。私もがんばりますので皆さんも元気がんばってください」「……一人の生徒が発表しながら涙を流しはじめ、声をつまら

せました。ひきつられて他の生徒たちも泣きだしました。聞いていたおじいちゃんやおばあちゃん、職員の人たちもハンカチを目にあてています。

「やさしい心」が涙となってあふれ出たのでしょうか。一日一日を一生懸命、強く生きていくおじいちゃんやおばあちゃんに接してみても生徒たちは「生きる」とは何かを考え、これからの人生を自分自身でどう歩むかを見つけたのではないかと思います。

やさしい心
いつまでも
忘れません



「はい、おばあちゃん 食事にいきますよ」(蓮の実園)



笑い声あげながらイスもピッカピカ(聖園)



たたみもきれいにサッパリと(蓮の実園)



職員
の皆
さん
と
の
対
面
式
「私
た
ち
に
も
で
き
る
か
心
配
よ
ろ
し
く
お
願
い
し
ま
す」
(蓮の実園)



壁に衝突しないように気をつけて(蓮の実園)



屋
外
で
の
食
事
「お
ば
あ
ち
ゃ
ん
待
っ
て
て
オ
ニ
ギ
リ
も
っ
て
く
る
か
ら」
(蓮の実園)



孫たち？に誘われて思わず「ハイピース」
(聖園)



おじいちゃんの若い頃の話に 思わず笑いが (聖園)



「ハイ おいしい お茶をどうぞ」 (聖園)



「おじいちゃん ハイ アーンしておいしいですよ」 (聖園)

私は、こういうボランティア活動は初めてでしたので、最初は少しとまどいを感じましたが、二日目多少慣れたせいか、お年



「体験が人生の
大きなプラスに」
阿久根農業高校
三年 花田かおり

寄りの方と話すゆとりができました。
一人のおばあさんが、「若いというのはいいよねー。若い時が一番思い出に残るのよ。人生は一度しかないの。今を大事にしないでね」と、話された言葉がとても強く印象に残っています。
私は、このボランティア活動を通して、様々な事を教えてもらったような気がします。
この体験が、私達にとって大きなプラスとなるように頑張っていきたいと思っています。

ボランティアということとは、初めての経験でしたので、何をしていたのか判らず、他の人のように自分から積極的に、おじ



「逆に励まされ感激」
阿久根農業高校
三年 尾崎 三美

いさん達に、あまり話しかけたりはしませんでした。
でも、最後のお別れ会の時に、何もなかったのに、お礼を言われ、おばあさんから手を握って、反対に励まされたことが私にとってはずごく励みになりました。
ボランティアということとは、ただ単に世話をするだけでなく、相手のことをよく考えてあげる必要があるのかなあと感じました。
ボランティア体験学習に参加できたことは、私にとって、とてもいい経験でした。



夕涼み会では一緒に楽しく踊りました(聖園)

「おじいちゃん、おばあちゃん いつまでも元気で また来ます」思わず涙が…(聖園)



「一生懸命がんばってね、そして そのやさしい心を
いつまでも 失わないでね」(聖園)



かご作り「おじいちゃん 上手だなあ」(聖園)

体験学習の中で最も忘れられる事
ができないものに「入浴介助」
があります。おばあちゃんの小
さく、曲がった背中、私達が今
こうして幸福な生活ができるの



自発的に
「行動する福祉を」
阿久根高校
三年 黒坂 恵美

は、おばあちゃん達が苦勞して
働いてきてくださったおかげで
はないでしょうか。背中のしわ
の一つ一つがその証だと……。
今、若者は、無気力、無関心、
無感動であると言われます。ポ
ランティア活動に対しても、「気
持ちだけの福祉」が多いよう
です。二十一世紀を背負って立つ
私達だからこそ、自発的に「行
動する福祉」になってほしいと
思います。

一人一人が、福祉とは何かを
考え、行動の中から、隣人を愛
せる人間としての成長が期待さ
れるでありましょう。

私は、このボランティアに参
加して本当に良かったと思って
います。参加しなければ、老人
問題を考えなかったであろうし



他の人にも体験
していただきたい
阿久根高校
三年 脇園 尚子

又、その問題の深い意味を考え
るという事に気付かなかっただ
ろうと思います。そして、自分
の存在が、このようにも社会と
深く結びついているとは思ひも
しませんでした。

でも、私は、この夏このよう
な素晴らしい体験をすることが
できました。是非、他の人達に
も体験してもらい、この複雑な
社会のことを一緒に考えてもら
いたいです。

そういう人達が増えてくれた
時、本当に私達は素晴らしい社
会の中で生きていけると思いま
した。

総合機械加工

「一心精機」を誘致

来年9月から操業予定

大阪府東大阪市に本社をもつ総合機械加工会社「一心精機」の企業誘致が決まり八月十一日、市役所で立地協定調印式が行われ、



調印式が終わり 握手する 福永社長(左)と新伊助役

印しました。

同社は四十三年一月、現在、会長で川内市出身の福永俊光氏が東大阪市で創業を開始。松下電工レーザー事業部、ホソカワミクロン、大隈鉄工などの三十社の協力会社として、レーザー発信機や工作機械など精密部品の機械加工を手がけてきており、資本金一千万円、従業員二十一人、年間売上高約二億円となっています。

赤瀬川の 大辺志に立地

立地する工場は「一心機械株式会社」の名称となり、赤



市役所会議室で行われた調印式

新しい塵芥収集車を購入

スムーズに収集できるよう
ご協力を!!



美化清掃に活躍する新しい塵芥収集車

瀬川の大辺志に三千三百平方メートルの用地を購入し、鉄骨平屋建ての三百三十平方メートルの工場が建設されます。

操業は、来年九月からの予定で、初年度は男子十一人の従業員でスタートし、将来は二十人程度に増やす計画であります。

市では、このほど塵芥収集車を購入しました。

現在、市には三台の塵芥収集車がありますが、この中の一台が古くなったため新しく買い替えたものです。

新しく購入した塵芥収集車は二トン車の三人乗りで、荷箱容量は四・二立方メートル。購入価格は三百九十五万円で全額「国民年金還元融資」によるものです。

この新しい車が、各家庭から出されたゴミなどを収集するのに一層活躍することになります。しかし、ゴミの出し方などが守られていないと何の効果も発揮できません。

市民の皆さんも、必ず指定された日に決められたゴミを出していただき、スムーズに収集できるようにご協力をお願いします。



「まだまだ元気です」
93歳でゲートボールを楽しむ 牧尾休次郎さん

おじいちゃん おばあちゃん 健康で長生きを

九月十五日は敬老の日。多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う行事などが各地で開かれたことと想います。

昭和六十二年の日本人の平均寿命は男性が七十五・六歳、女性が八十一・三九歳となり、前年よりも約〇・四歳延びています。

現在、市内の六十五歳以上の方は約五千五百人で、市総人口の十九割にあたり、まだ九十歳以上の方は市内百二十三人（男三十三人、女九十人）います。

戦後、日本の高度な科学技術を生み出し、豊かな生活環境を築いてくれたのはおじいちゃんおばあちゃんたちです。

毎日の生活の中で培ってきた豊かな知識と経験には何ものにもかえられないものがあります。

おじいちゃん、おばあちゃん、もっと元気で長生きをして、若い人たちに豊かな知識と経験を教えてください。

市内90歳以上は123人

昭和63年9月10日現在（年齢は15日現在）

※敬称略

101歳 奥平キサ（中屋敷）	中池ユキノ（上野）	奥平ミヤノ（浜）	徳田ナミキク（牟田）
100歳 島之浦キク（新町）	小牟田キク（上野）	大川内エキ（上原）	濱崎ミル（新町）
98歳 中湯平ワカ（菟野）	馬見塚ヨ子（馬見塚）	倉津キヨ（倉津）	陳尾ハルキク（陳之尾）
97歳 假屋イロ（上野）	宮園シモ（波留）	中村センミツ（牛之浜）	堀浦セノ（黒之浜）
成尾ルイ（新町）	坪久田チセ（波留）	小村ツルマツ（瀬之下）	上松セツ（上野）
96歳 知識ヨ子（田代下）	岩切アサキ（浜）	牛之濱ススミ（牛之浜）	吉田ユキノ（大丸）
村田エノ（大丸）	若松サヨ（尻無上）	神之田ハツキク（的場）	川畑ノエ（牛之浜）
95歳 高良武敏（大丸）	大尾ミサ（大尾）	中野ジキノ（新町）	押川フサヨ（永田下）
的場ツヤキク（的場）	奥平サカヘ（中屋敷）	洲崎チカ（黒之浜）	濱川律（高松）
尻無濱フジ（尻無下）	下苗ムメキク（尻無上）	鶴崎トメ（上野）	篠瀬キサノ（米次）
松永アキ（牛之浜）	92歳 大尾三助（大尾）	春田スワ（的場）	竹尾松ヨ子（高之口）
宮田サヨ（波留）	大石澤章（山馬場）	寺園イセ（大下）	若松キク（尾崎）
大連チヨマツ（大連）	池上茂市（大丸）	倉津サエ（倉津）	春田ハツムメ（的場）
94歳 新田蔵巳之助（新町）	山下半兵衛（瀬之西）	崎山鈴（町）	宇都セムマツ（大川島）
田口カツ（佐湯）	坂口三五郎（上野）	折橋トキノ（弓木野）	下路チヨマツ（内田）
出水アイノ（下村）	小田原九蔵（浜）	本畑ツルノ（遠矢）	寺地アキノ（尻無中）
高原ツル（梓）	笹原ケサマツ（網野上）	磯畑イツノ（新町）	中尾タメ（波留）
高山平ウメギク（小連）	大連ハツカメ（大連）	下苗シラノ（尻無上）	篠原チヨ（網野上）
93歳 新田庄吉（高松）	荒田フサキク（上原）	川畑伊勢菊（的場）	篠田ツヨ（高松）
新田貞義（下桑）	奥平コヤノ（中屋敷）	神之田チヲ（仲仁田）	寺下タ子（高松）
若松正一（尻無上）	川畑ヒサマツ（川畑中）	90歳 慶越林蔵（永田上）	松田オイシ（段）
牧尾休次郎（黒之上）	垂野アイ（上野）	松永次郎吉（牛之浜）	河北セシマツ（網野上）
奥國義（大丸）	大野キオナ（網野下）	下苗金四郎（尻無中）	宮内フイ（瀬之上）
西田駒助（高之口）	有田シナ（上野）	寺地春美（尻無上）	牛之濱ワサ（牛之浜）
竹原伊ヤ（羽田）	西田ヨシ（高之口）	上野照蔵（上野）	八木コメ（橋之西）
	宮田エタ（波留）	宮原吉（梓）	坂元ヨシノ（上野）
	勝日テル（高松）	尻無濱市次郎（高松）	反ワサイ（菟野）
	91歳 永井野末吉（尻崎）	出口宗太郎（新町）	武田ヒサヨ（古里）
	東新小次郎（牟田）	野村芳松（小連）	南ハツカメ（脇馬場）
	神之田勇助（仲仁田）	花田喜助（中屋敷）	濱アサキク（脇本浜）
	若松敏（尻無上）	外戸口政古（脇馬場）	餅越フク（弓木野）
	宮園勇吉（菟野）	中村良英（宮原）	

私の 提言

「子供は親の後ろ姿をみて育つ」 “親子のふれあい” もっと大事に

9月のテーマ

子をもつ

親としての心がけ

今、子どもたちは塾に、また一分でも勉強をという大変厳しい時代に生きています。

ある大人は、「今の子どもはかわいそうな気がするが、時代がそうなのだから仕方がない」と、言われる人もいます。

しかし、親として、子どもが成長していくなかでこのことだけは失ってほしくないし、そのためには親としてどうあるべきかをだれもが思っていることだと思います。

子どもは親の後ろ姿を見て成長するといわれます。

この厳しい環境の中で育つ子どもたちのために、親としてどのような心がけをしているのか、あるいは実行しようと考えているのか、六人の方に提言をお願いしました。



環境が整備されて子供
に甘えがあるのでは
横手区 中野 正春 41歳

▼新聞を読んで、小中高校生の子供達が関係する事件（さきさま）に子を持つ親として心痛める一人です。自分の子供だけは

と信じ否定してみてもやはり心配なのは私一人ではないと思います。そこで親として何をしてやればいいのか、どうすればいいのか、と多くの親が日頃から考え悩んでおられる事と思います。学校教育でも熱心に考えておられますが、その実態は学校も地域社会もあまりに整備されすぎて痛いのかゆいも手が届きすぎて、その自主性がそこなわれ、又そこには甘えもあると思います。

子供達よ失敗を恐れるな、人生七転び八起の言葉もあるではないか、「ダルマ」になりな

子供と一緒に

感動し合える親に

新町区 森 久子 40歳



▼小中高とバリエーションに子供三人を持つ母親です。今、中学生の教育の在り方が問われていますが、我が家の中学生の息子

PTA・育成会活動に

積極的に参加を

的場区 川畑 勝昭 43歳



▼最近、親と子が対話する時間が少なくなりました。特に子供が高学年になるにつれその割合は多くなっています。

はサッカーに熱中しています。小学一年の時から続けています。が、ずる休みをする主人がとてもしんどく、子育ての事で良く論議をしました。しかし、やはり男の子は父親に任せざるべきだと、今ではサッカーを続けさせサッカーを大好きになった息子を見て感じる私です。

今の時代、あまりにも忙しすぎ子供の行動を把握している親が少ないと思います。子供と一緒に感動し合える親になって欲しいものです。家庭とは、わがままの言えるやすらぎの場ではなくてはいけないと思います。

原因は、親と子が共通の話題をもっていないからです。

子供はそれなりに親を見ているとは思いますが、父親は仕事の事ばかりで家に帰っても疲れ果て、口数も自然と少なくなってしまう。親と子が本気になつて話し合うには、親の方から子供に近づき共通の話題をもつことだと思えます。

そのためには、PTA活動とか育成会活動に進んで出席し、子供の情報を多く知る事が大事だと思っております。しかし、現実にはなかなかうまくいかないのが現状です。

親の教えによって 子供は育つ

飛松区 齊藤 暁生 43歳



▼子を育てるのは親なのか、それとも子が親の助けを得て自ずと育ち行くのか？もし、親が育てるのなら育てる親の想いを以ってこれを優先し支配し子の思いは親の想いと支配を超える事は無いであらう。また、親の想いと支配に甘んずるを以って良き子と言ひ立派に育つたと自負するであらうが此れに反せば悪しき子として不出来を悩むであらう。

無限の可能性を持ち自ずと育ち行く生命に親として成すべきことは育ち行く事への助けを授ける事のみ与えられているのではないだろうか。その助けを授けるといふのは教えると言う事であり、つまり親の教えによって子は育つ、教育と言う事です。そしてそれは親の生きざまそのものです。

やわしさの中に厳しさ

「ほめる」ことも大事

瀬之浦下区 川上たまき 35歳



▼三人の子供をもつ親として実行したいと思っていることがあります。まず、きびしさの中にやさしさをではなく、やさしさ



働く婦人の家では、このほど「親と子のふれあい講座」を開催。親と子が一緒になって楽しくレクリエーションや工芸品づくりを行い、ふれあいを深めました。

相談事などしっかりと 受けとめてやれる親に

牟田区 濱島 永喜 50歳



▼「親子のふれあいを大切に」と各機関で奨励されている昨今ですが、私達の育った時代は、このような型にはまっておらず、

子供に目標設定と 自覚をもたせよう

遠矢区 松元 安秀 38歳



▼私は、三人の子供がいます。それぞれ性格が異なり、性格に応じては対応できません。そこで家族全員の行動計画を全員で

親や大人の一生懸命な姿を見て、自分もあんなにしよう、こんなにすればよいと、判断したものでした。

身近にあつては恐く、近寄りたく、世間で一番頼れるのが父親であつたように思えます。現在、親になって、「社会のルールを守り、人に迷惑をかけない、素直な子」を我が家の子育てのモットーにしております。この子が、また地域の子ども達がどのような相談をもちかけても、しっかりと受けとめてやれる親であり、隣りのおじさんでありたいと思います。

作成し、計画に向い実行をするようにしています。たまには守れなくて、大島ゲンコツが飛んだり、夜、山につれて行かれたりして、耳と身体で覚えるようにしています。また、守れない人は、誓約書を自分で書き、朝、読むようにしています。子供達も小さい時から帳をキチンとしなければと思います。毎日、同じことをやっているの自然に身についてきます。私の提言は、子供達にも目標設定をさせ、「私は大きくなったら何になるのだ」とハッキリ自覚させることです。



③ 1211 内線 214 へ



三年連続開催

「全九州小学生ソフトボール大会」

チビッ子選手たちが熱戦

全九州小学生男子女子ソフトボール大会が八月二十日、二十一日の両日、当市の総合運動公園で開催されました。

大会には、九州各県の予選を勝ち抜いてきた男子十七チーム、女子九チームが参加。当市からも男子選抜チームをつくり参加しましたが、やはり県の代表で

ある強豪チームだけに、善戦はしたもの一回戦で敗れてしまいました。

大会は当市で三年連続開催。来年からは他の会場に移りますが、主催した市ソフトボール協会では、これだけの大きな大会を三年連続、無事盛大に開催できたことを大変喜んでいました。



ゲートボールを楽しみながら交通マナーを // 市交通安全ゲートボール大会

市交通安全ゲートボール大会が8月23日、総合運動公園で開催されました。

ゲートボールを通じて交通安全意識を高めるために行われたもので各地区から10チームが参加。コート内に引かれた横断歩道で手を上げて渡るなど、交通マナーを学びながらゲートボールを楽しみました。 (優勝) あけぼの (2位) 古里 (3位) 佐湯 段



さわやかな汗を流し快走 ナイター陸上カーニバル

市陸上競技協会主催によるナイター陸上カーニバルが8月25日、市総合グラウンドで開催されました。

100m競走や5,000m競走、特別種目として幼稚園児によるかけっこなどが行われましたが、ナイター照明に照らされながら、参加者はさわやかな汗をかいていました。





みんなの

行事・催し物など
お寄せ下さい。



見事!! 南九州大会で二連覇

阿久根海洋少年団

第九回日本海洋少年団南九州地区大会が八月六日から八日までの三日間、熊本県牛深市で開催され、阿久根海洋少年団（河南貞一郎団長）が見事、総合優勝しました。

大会には熊本少年団や鹿児島少年団など十一少年団、二百九十三人、阿久根少年団からは四十一人が参加。競技は手旗と水泳が行われ、手旗送受信では、浜崎博樹くんや新町由夏さんな

ど八人編成のAチームが優勝。水泳では、小学生男子二十五メートル自由型で新町晃平くん、同女子で浜崎寿代さんが優勝するなど圧倒的な強さで他の団を寄せつけず、ほとんどの種目を上位独占しました。

この結果、総合得点で百五十点を獲得し、二位の牛深少年団の百三十一点に大差をつけて、見事、前回に続き総合優勝を果しました。



にぎわった海水浴場などを清掃 市身体障害者福祉協議会

市身体障害者協議会では8月29日、大川島、臨本海水浴場と市街地のボランティア清掃を実施しました。

清掃は今回が4回目です。臨本では愛和園の皆さん方も参加。空き缶やゴミなどを拾い集め、みるみるうちにきれいになり、参加者らはさわやかな汗を流しました。



あなたの発音“ベリーグッド” 英語に親しむ集い

市教委主催による「英語に親しむ集い」が8月19日、20日の2日間、市青年の家で開催されました。

集いには市内各中学校から60人が参加。講師は出水教育事務などにアメリカから来ているロバートブライヤーさんら2人。参加者らは本場の英語にとまどいながらも英会話を楽しんでいました。



市青少年弁論大会

市長賞は 久保綾子さん(小学生)
中内田愛さん(中学生)

堂々と自分の考えを訴えた弁論大会

私の中の

白い玉

鶴川内中三年 中内田愛



をすると思ひ玉が大きくなるんだ。私は蓮の実園を訪ねてこの言葉を思い出しました。

私たちの学校では毎年、ボランティア活動の一環として蓮の実園を訪ねています。入園者は、目の不自由なおじいさん、おばあさんたちです。しかし、そのハンディを背負いながらも精一杯、そして明るく生きていらつしやいます。私はそのフアイトのある姿を見て心を打たれ、また反省させられました。健常者である自分はこのままでいいのだろうか。そして、健常者としての有難さも感じました。

私は三年生になって、初めてこの活動に積極的に参加しました。去年までは「わざわざあんなところまで行くのは面倒だなあ。それに語らうまくできないし、でもみんなも行くから仕方がないや」という気持ちだけでした。

しかし今年は、最上級生として、生徒会役員として、自覚をもつて取り組み、交歓会も奉仕活動も自分なりに精一杯のことができました。

そして語らいの時間……

緊張したのも初めだけで、おばあさんと気軽に話せるようになり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。今年はなぜ

こんなに楽しく話ができただのか、三年生として積極的に活動したからだろうか。いやそれだけではないでしょう。今まで欠けていた、おばあさんに対する思いやりの心、それを今回は表すことができたからです。そして最後に握手をしました。その時、言葉に言い表すことのできない、温いものを感じました。それは、お互い思いやる心が通じ合ったからでしょう。学校を美しくしようという心があるから、美しくなるのと同じように、相手を思う気持ちがあれば、その心が相手にも通じるのです。

「思いやりの心」それは誰もが持つてはいるものの、表すことの難しい皮肉なものです。しかし、相手の心と自分の心の橋渡しをしてくれるのは、この「思いやりの心」だと思ふのです。みなさん、その思いやりの心を素直に表すことのできる人になろうではありませんか。

私の中の白い玉は、思いやりの心なのです。あの、おばあさんの手のぬくもりが忘れられません。これからは、その思いやりの心をもつて人と接していきたいと思ひます。母に教えられた私の中の白い玉は、さらに大きくなり続け散ることはないと誓います。

市教育委員会主催の市青少年弁論大会が八月二十五日、協本地区公民館で開かれました。大会は今年が六回目で小学生の部に十一人、中学生の部に五人の市内各小中学校の代表者が参加し、あるおじいさんから学んだこと「ぼくの夢」「広げようあいさつの輪」など、各人が自分の訴えたいことを五分以内にまとめ、堂々と熱弁をふるい、多

くの聴衆者から大きな拍手が送られていました。

成績は次のとおりです。(敬称略)

(小学生の部)▼市長賞 久保綾子(鶴川小6年)▼議長賞

富永辰也(尾崎小6年)▼教育

長賞 鶴川健(隼人小6年)

(中学生の部)▼市長賞 中内

田愛(鶴川内中3年)▼議長賞

坂口英樹(阿久根中3年)▼教育

長賞 下園勝利(大川中3年)

阿久根に生きる

利子さん

昭和六十一年 久保 綾子



な感じがします。利子さんの家は、母ブタ八十頭と、八百頭余りの子ブタなどを飼育して、現在、両親と利子さんの三人で、養豚業を営んでいます。

私は、五年生の社会科の学習で、日本の農業は、後継者が年々減っていくので、農家の大きな問題になっていることを知りました。

「—ところがね、阿久根に残って農業をしようとする人が、この阿久根市には、十人くらいの子の農業者となった、河北利子さんの話を話して下さいました。」

私は、先生の話を聞いて、ぜひ利子さんに会ってみたいと思っていたので、この夏休みに母達と、阿久根の養豚場の見学にいったのです。

利子さんは、気持ちよく私達をむかえ、広い豚舎の案内をしながら、養豚のむずかしさや楽しさを話してくれました。

「生き物でしょう。だから一日だって家を空にすることも油断もできないのよ。」

「でもね、子ブタが生まれて、だんだん大きくなるのは、とっても楽しいものよ。」

利子さんの話は、私が初めて聞く厳しい養豚の仕事ばかりです。

朝、五時には親ブタにえさをやること、次々に生まれる子ブタの世話、少しの油断もゆるされないこと、清潔第一の豚舎は、排便のしよ理やそうじがとでも大変なこと、週一回は、長島に養豚の研修に行くなどして、毎日が忙しすぎて、それがまた楽しいと話す利子さんを見て、私は、なんとすてきで、たのしい人だろうと思いました。

外見は、決してかっこよくない養豚の仕事に、ほこりを持ってうちこんでいる利子さんが、私にはとても大きく立派に見えました。

今、阿久根市やあくね大島などには、流行の服に身をかわった若い人達がたくさん来て、水泳やキャンプを楽しんでいます。一方、十九才の利子さんは、地味な作業服をきちんと着て、何百頭ものブタの世話に、汗を流しながら広い豚舎の中を駆け回っています。

本当に対照的な若い人の姿です。皆、それぞれの立場で、それぞれの生き方があるでしょうが、私は、しっかりと郷土に根をおろし、阿久根の産業発展のためにがんばっている若い利子

さんの姿に、深い感動を覚えしました。

でも、阿久根市では、十年ぶりにたん生したという、若い女性の農業者が、利子さんただ一人というのは、あまりにもさびしすぎます。

利子さんの仲間が、今の阿久根市には一人でも、二人でもふえてほしいと思います。社会科で学習した、農業後継者センターのような施設を作って、研修や親づくを深めながら、楽しく農業ができれば、どんなにすてきでしょう。利子さんは、ますます生きがいにもえて、女性農業者としてがんばってくれる事でしょう。

私は、利子さんから、どんな仕事でも、骨身をおします。汗を流して働くことの尊さを学びました。また、豊かな食生活のかけに、生産者の人々の言葉にない苦労があることも知りました。

私は、利子さんとの出会いの感動をいつまでも忘れず、いろんな仕事にアタックしてみようと思います。働くことの喜びと、生産者の方々への感謝、この二つを教えた下さった利子さんに負けないよう私もがんばりたいと思います。

競技に 市民こそって参加しましょう
応援に

第12回 市民運動会

今年は10月9日（日）に開催します
場所 市総合グラウンド

▽年金相談日

9月20日（火）
10月20日（木）
午前10時～午後4時
市役所

▽税の相談日

9月20日（火）
10月20日（木）
午前10時～午後3時
▽場所 阿久根商工会議所

▽ワンちゃんのひきとり

9月27日（火）
10月4日（水）
午前10時～10時30分
保健センター



阿久根に 生きる ①7

入角 亨さん (55歳) 大丸 区

夢で終わらせたくない

「全国ソフトボール大会」誘致

市ソフトボール協会理事長の入角亨さんは、全九州小学生男子女子ソフトボール大会を三年連続開催し、無事、盛大に終了させ、今、ほっと胸をなでおろしています。

入角さんは、中学から大学まで硬式野球にうちこみ、社会人になってからも母校の鹿児島商科大学(現鹿児島経済大学)の監督をしていましたが、現在の青果店を始めてからは仕事に専念。しかし、もって生まれたス

ポーツ好きのため昭和四十九年頃、阿久根のソフトボールが他市町に比べてレベルが低いことに気づき、数人の人たちと市ソフトボール協会設立に奮闘。その貢献度がかわれ、初代理事長として現在もがんばっています。

一番の思い出はと聞きますと「九州実業団大会開催の時、大会前日に大雨が降り、大会ができるかどうか大変心配でしたが、当日、午前六時から役員や審判団が一丸となってグラウンド整備を行い、どうにか大会を成功に終わらせることができました。この時の喜びは何ともいいようのない満足感でいっぱいでした」と、話されます。

現在の協会登録チーム数は五十五チームで会員は約一千人。協会役員の方々がそれぞれの役割を果たしているから他市町村に誇れる協会になったのです」と言われる入角さん。将来の夢はと聞きますと「もちろん全国大会開催であり、しかし、夢に終わらせたくありません。そのことが阿久根市の活性化にもつながると思っています」と、目を輝かせ、語ってくれました。

農事だより (9月中旬～10月中旬) 阿久根農業改良普及所



◎水稲の管理

出穂期は吸水量が最大になる時期ですので水をたやさないようにしましょう。穂が垂れてきたら間断かん水をして根に酸素を供給します。早く落水すると枯熟するので、乾田では、刈取りの一週間前までは間断かん水を続ける必要があります。

◎果樹の病害虫防除

晩柑類で風の強い圃場では、カイロウ病の予防が必要です。クレフノン加用コサイドボルドー二〇〇〇倍の散布が効果的です。温州みかんでは、収穫後に腐敗果の発生を防止するためトッブジンM水和剤三〇〇〇倍を散布します。

びわでは、ガンシユ病対策として九月下旬にコサイドボルドーの一〇〇〇倍とバダン水和剤一〇〇〇倍を加用して散布します。◎イタリアンライグラスの水稲立毛播栽培

(品種) サクラワセ・ワセユタカ
ワセアオバ等の早生種
(播種期) 水稲刈り取り七日前
(播種量) 十アールに四・五キログラム
(播種方法) テール当り、二〇キログラムの土と種子をよく混ぜて播く。
(施肥) 溶燐四〇キログラム・化成肥料三〇キログラムを播後十日頃に施す。

◎秋野菜のつくり方
九月中旬～下旬は大根・ホウレン草・春菊・レタス・高菜・中国野菜等の播種適期です。野菜類は酸性の畑を嫌うので苦土石灰を一アール当り十・十二キログラム全面に散布して深く耕してから、四五・六〇センチの畦巾で溝を切り堆肥二〇キログラムと化成肥料六キログラムを施して畦づくりする。ブロッコリは、大きくなるので畦巾は広くします。

キャベツは、九月いっぱいまで植付を終わるようにし、株間は、三五・四五センチ、レタスは二〇センチにします。
種まきは薄く均一にして覆土します。発芽後は苗立枯病の予防のためオースサイド水和剤の千倍を散布します。本葉二・三枚の頃適当な間隔で間引することが大切です。

「明るく 楽しく」

手編みグループ

グループ紹介
(59)

昭和六十一年度働く婦人の家の後期講座に引き続き、グループの発足となりました。グループ名を、いろいろ考えましたが、良い名前が浮かばず、今日に至っております。時間はかかりますが、一本の糸からセーターやベストやカーディガンになる喜びは何物にも替えられません。

始めた頃は、一シーズンに一枚編むのがやっとでしたが、一年以上過ぎた現在は頑張って一シーズンに二、三枚編む人もいます。一枚仕上げる毎に自信がつくようになり、次の作品への意欲も湧いて来ます。そして子供達にも「今度は編んでね」と言われ、新たなフアイトも出てきます。



人数も少なく、和気あいあいと時には料理やおやつ作り、子育てまで話題が広がり、毎週火曜日午前10時～12時までの二時間が待ち遠しくなりました。本を見て編んだりお互いに教え合ったりの毎日です。ご希望の方は一緒にいかがですか。ご加入をお待ちしております。働く婦人の家まで連絡を。

おかあさん ④3
ありがとう



育昭さんと佐知子さん

図書館だより

今月の新着図書

▽東野圭吾「魔球」▽丸谷才一「樹影譚」▽宮城三郎「火と山鳩」▽大庭秀子「生きものの心」▽日野啓三「都市といふ新しい自然」▽夫馬基彦「紅葉の秋」▽古本ばなな「うたかた」サンクチュアリ」▽森内俊雄「風船ガムの少女」▽坂井真弥「疎開記」▽ジョアン・リシガード「ふたりの世界」▽森陽子「アイランド」▽渡辺淳一「白夜」▽神坂次郎「戦国を駆ける」▽安西篤子「武家女史」

尻無下区

寺地 育昭 (12歳)

ぼくは、朝五時半ごろ新聞配達に行きます。母は、ぼくより早く起きています。毎日新聞配達をしていると、時にはあらしや大雨の日があります。そんな朝、母はわが身のように心配して、ぼくの姿が見えなくなるまで玄関から見送っています。ぼくが新聞配達から帰って来ると、母は笑顔で「おかえりなさい。」と、決まって言います。ぼくは、たえず心の中で思っています。「お母さん、ありがとう。」

休館のお知らせ

市立図書館では、9月23日から10月2日までの10日間、休館（本のむしぼし）のため休館いたします。

高齢者の健康づくり

近年、日本人の平均寿命も大幅に伸びてきています。この伸びとともに、高齢者の健康への関心も高まってきています。

高齢者にとって、運動することは、身体の健康はもとより、毎日の生活に活力と気力を与え、人間関係をスムーズにするなどの精神的な健康づくりにも大きな効果があります。

そこで、今回からは、高齢者の健康づくりのために手軽にできる体操を紹介してみます。（社会体育課）

◎おはよう体操（朝目ざめたときに）



友だちの輪 ⑪



尻無中区
寺地 祥子さん（21）
鹿児島相互信用金庫勤務

- 趣 味 ドライブ・音楽鑑賞
- 好きなことば チャレンジ
- 理想の男性 相手の立場をいつも尊重できる人
- 仕事の心がまえ お客様とのつき合いを大切にしたいやりをもって接すること

※次の友だちを紹介してください

鹿本浜区の中野佐奈美さん

次はあなたの出番です。

阿久根歌壇

折田 恵司 選

（秀逸）

遠く近く祭囃子を聞くゆふべ故
国に帰りに幸せ思ふ

大丸町 橋崎 幸

（評）

異國にて特殊な療養を受けて過
した人の詠歌が自然に流露して
良い作品となった。

（佳作）

味噌麦の醸す香に蓋とれば麴の
花の白く咲きぬる

赤瀬川 築瀬 紀夫

移り来し家古けれど庭あるを喜
びし嫁花苗植うる

鹿本 赤崎 タエ

孫は帰る 月照る静かな洗面所
小さき歯磨子二つのこれる

上 松 遠矢 律

在りし日の想ひ出話に通夜明け
て帰るし狭庭野ぼたんの咲く

琴 平 川畑 スミ

子の地番忘れし吾に乳の香の残
れる孫が淀みなく云ふ

本 町 河南 節子

白みゆく愛宕の浜の松原に入り
てほどなく蟬が鳴き出づ

上 原 富原 範子

やうやくに着きしホノルル港外
に朝日まぶしく水先案内を待つ

愛 媛 小島 幸太郎

8月の市内交通事故

（ ）は前年
今年計

発生件数 15 (9) 82
死亡者数 0 (0) 1
傷者数 19 (10) 98

交通事故相談日

10月13日（木）

午前9時30分～午後4時

市民相談室

●消防ミニニュース

（ ）は今年の累計

8月の火災発生数 0 (7)

8月の救急車出動回数 69 (327)

人 口

住民基本台帳人口と世帯数
9月1日現在

（ ）は8月1日から

人 口 29,086 (－12)
男 13,522 (－11)
女 15,564 (－1)
世帯数 10,286 (－1)



ハイ私「夢子」です

ヨロシク

梶 隆博・祐子さんの二女(大川區)

「私の好物はハンバーグと焼きそば。私の家の前はみんなもよく知っている大川島海水浴場なの。きれいな海をみながら毎日、麻衣子姉ちゃんと縄とびなどをしながら元気に遊んでいるの。みんなも一度遊びにおいでね。待っているから」夢子

誕生

おめでとう



出生児 (8月届出分)
保護者(区名)
永井野由佳 伸夫(高之口)
福浦 広基 富士雄(大丸)
遠矢夏奈江 静可(高松)
寺園 愛美 陽一(大下)
川原圭士郎 克郎(大丸)
高橋 泰弘 健次(下村)
西田 清子 己之助(高之口)
服部 友裕 吉弘(波留)

寺地伸一朗 敏治(牧内)
笹原 麻衣 豊(桐野上)
高津 沙耶 三也(上原)
末古 将喜 洋治(遠矢)
尾上 敏章 英二(飛松)
倉津 勝吾 敏美(寺山)
上野 華葉 茂(牧内)
山崎 龍太 辰彦(折口東)
余瀬 祐太 秀一(上野)
橋口 剛人 栄一(町)
石澤 良太 義明(小渡)
山下 達也 裕一(橋之西)
中原 梨香 一喜(簡田)
大野 幸子 弘美(桐野下)
石原 由香 裕二(大瀬)
尾崎 隆一 隆雄(湯)
築瀬 涼 勝志(大尾)
中島 久美 嘉美(折口東)
青木 亮介 孝夫(新町)
福留 弘久 幸雄(橋之西)

在宅医さん

●9月23日(秋分の日)

国立療養所阿久根 ①331(新町)

内山病院 ①1551(高松)

黒木外科 ③0200(下村)

●9月25日

上園医院 ③1055(町)

喜多医院 ③0038(大丸)

平医院 ③2626(古里)

●10月2日

堀切産婦人科 ③0263(高松)

上野医院 ③0420(町)

石原医院 ③0045(橋之東)

●10月9日

大塚眼科 ③0306(浜)

林胃腸科・外科 ③3639(大丸)

脇本病院 ③2121(橋之西)

●10月10日

簡井耳鼻咽喉科 ③0040(栄町)

北国外科 ③0016(町)

浜之上医院 ③2600(馬場)

●10月16日

阿久根内科 ③0578(琴平町)

田中外科 ③0553(大丸)

黒木外科 ③0200(下村)

●10月23日

有村産婦人科 ③4180(栄町)

内山病院 ③1551(高松)

平医院 ③2626(古里)

給油所の日曜当番店

●9月25日
落合石油 (上原) ③0055

こめいふくを お祈りします

死亡者 年齢(区名)

巻木 安衛 78(浜) イチダサ

中村 豊治 84(深田) 久子

湯田 深志 70(尻無上) キミエ

桑原 謙蔵 88(下桑) ヒサ

松永 傳蔵 81(牛之浜) キヤノ

川畑スソノ 94(湯) 為治

尾上 敏 71(飛松) フク

中村ナツエ 70(波留) 勝臣

池上石油 (新町) ③0807

●10月2日

阿久根石油 (港町) ③2430

田中石油 (大丸) ③0039

●10月9日

築瀬石油 (赤瀬川) ③1093

阿久根石油 (馬場) ③0038

●10月16日

南国産産 (鶴見町) ③0362

阿久根石油 (橋本) ③0389

●10月23日

阿久根市農協(折口) ③1302

丸善石油 (新町) ③0266

社協だより

次の方々から市社会福祉協議会に香典返しとしての寄付がありました。ありがとうございます(敬称略)

上野緑(菟野) 御手洗敦子(町) 遠矢ミサ(山馬場) 栗林

寄付

義雄(羽田) 巻木イチダサ(浜) 平義行(中村) 中村勝臣(波留) 大尾隆夫(大尾) 桑原ヒサ(下桑) 川畑為治(湯) 中村真(深田) 堂後俊夫(桐野下) 湯田キミエ(尻無上) 〆馬場産産 八月二十二日付、南日本新聞の地方記者の目「野良猫救出作戦」を読んで感激された鹿児島市の匿名さんからネコちゃんたちに寄付。

〆市水産業発表のために役立ててくださると、前黒之浜漁協長の故福満忠二さんの奥さん、エ子さん(黒之浜区)から寄付。〆愛媛県にお住いの小島幸太郎さんから、広報送付のお礼として寄付。

ありがとうございます。

中野 チリ 68(尻無上) 武
洲上 ソデ 62(黒之上) 義雄
青野 邦人 70(上野) 満子
平 モト 80(中村) 義行
児玉 太市 47(上桑) ミネ
堂後 フテ 83(桐野下) 俊夫
伊尻 益雄 62(深田) マサ子
三木 茂雄 66(上野) ハツエ
大谷 リキ 78(黒之浜) 安海
梶尾 勝榮 87(黒之浜) 亨
原崎 貞夫 58(馬場) ミエ
中野 徳明 45(中屋敷) 好子

住宅統計調査にご協力を

本年十月一日現在で全国的な規模により住宅統計調査が実施されます。

この調査は、昭和二十三年から五年ごとに行われている住宅に関する国の最も基本的な調査です。

この調査によって、我が国の住宅の実情が地域的に明らかにされ、その結果は国や都道府県などで企画、立案する住宅建設計画をはじめ、都市計画、地域開発、環境整備などの基礎資料として利用されます。

調査票に書かれた内容は統計以外の目的に使用することは絶対にありませんので、調査員が伺いましたら、ありのままを回答くださるようご協力をよろしく

お願いいたします。

詳しくは、市企画課統計調査係までお問い合わせください。

☎ 1211 (内) 2322

9月は「障害者雇用促進月間」です

国及び県では例年九月を障害者雇用促進月間として障害者の方々の雇用促進運動を展開しています。

各種のハンディキャップを有する障害者の方々が働く場を得て社会経済活動に参加し、そこに生きがいを見出し出ていくことができるように事業主の皆さんの積極的なご協力をよろしく

故川畑強市長の市葬お礼

去る八月十日、執り行いました阿久根市名誉市民の阿久根市長故川畑強殿の市葬に際しましては、市内外から多数のご参列を賜り誠にありがとうございました。

当日はせっかくご参列をいただきながら何かと不届きも多かったこととお詫び申し上げます。

ここに基た略式ながら紙上をもって市葬終了のお礼にかえさせていただきます。

お願いします。

なお、各種雇用助成金制度等の援護措置もありますので詳しいことは職業安定所でおたずねください。 ☎ 3400

身障者のみなさん 気軽に相談を

身体障害者相談員は、身体障害者活動の中心となって活動する一方、身障者の更生援護やいろいろな相談に応じて必要な指導を行うことになっていきますので、自分一人や家族だけで悩まず、何でも気軽に相談ください。

- 身障者相談員 (敬称略)
- 末吉 行雄(遠) ☎ 2059
 - 海平 三蔵(段) ☎ 1075
 - 新戸善左衛門(飛松) ☎ 1623
 - 大野 澄義(大) ☎ 0095
 - 松本 正雄(瀬之下) ☎ 1356
 - 徳助(米 次) ☎ 2120

推薦入学制

学生募集

川内職業訓練短期大学校

募集定員

機械システム、電子、情報システム、建設システム系(若干名)

市営住宅の入居者を募集

市では現在、空き家になっている旧代住宅2戸、牛之浜住宅3戸と、これから空き家になる市営住宅の入居者を募集しています。

入居申請など詳しくは市都市計画課までおたずねください。

▶募集期限 昭和63年9月30日

応募資格

昭和六十四年三月高等学校を卒業見込みの者、高等学校の卒業成績が優秀で健康であり、学校長が責任をもって推薦できる者。

願書受付

昭和六十三年十月十一日～十月二十四日

試験日

昭和六十三年十一月一日

詳しくは、川内職業訓練短期大学校 ☎ 0996 ☎ 2121

交通事故の相談は

お気軽にどうぞ

自動車保険請求相談センター

鹿児島自動車保険請求相談センターでは、交通事故の相談

を無料で応じておりますので、交通事故でお悩みの方は気軽に相談してください。

受付時間

平日は午前九時半～午後四時 四十分

土曜日は正午まで(第二第三土曜日は休み)

弁護士相談日

毎週木曜日午後一時～四時
鹿児島自動車保険請求センター
(鹿児島市中央町十二丁目二
治生命西鹿児島ビル五階
鹿児島調査事務所内
☎ 0992 ☎ 3466)

☎電話の相談も受けています。

編集後記

広報五百号を無事発行できましたことを心から喜んでおります。ただ、残念なことに写真コンクールを計画しましたが、応募がわずかだったため実施できず大変申しわけなく思っています。

「広報あくね」を一号から見てもみますと阿久根市の動きが手にとるようになりますが、これらも市民の皆さん方のご協力があったからこそ毎月無事に発行できたものだと思います。

阿久根市の歴史と発展を綴る「広報あくね」これからもご協力をよろしく願います。

(英)